

高松塚古墳壁画の修理の進捗状況について

東京文化財研究所 川野辺 渉

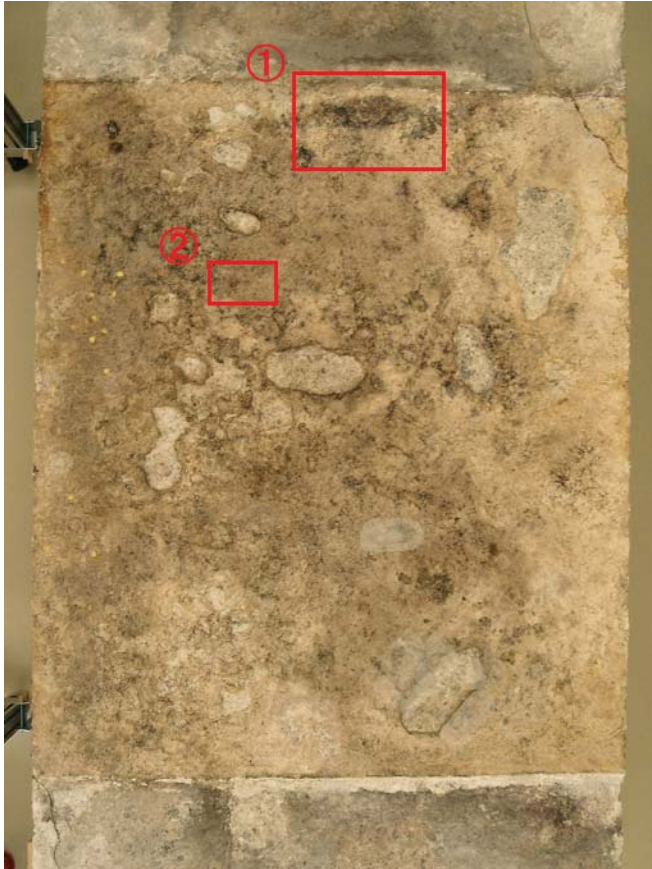
現在、高松塚古墳壁画の修理は、国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会（第9回 資料4—1 平成19年9月28日）で報告、承認された作業方針に従い、クリーニングを中心に、一部、漆喰層の強化処置を進めているところである。並行して、随時、壁画の現状地図の作成も実施している。

クリーニングについては、四級アンモニウム塩（溶液）や次亜塩素酸ナトリウム（溶液）等を用いながら、壁面の状態に応じた処置を実施している。漆喰層の強化処置については、「ふのり」（海藻を原料とした天然接着剤。生物対策に鑑み供雑物を精製して使用）やセルロース誘導体等を用いながら、壁面の状態に応じた処置を実施している。

これらの作業により、処置を実施した部分については一定程度以上の効果が得られつつある。

修理の具体的な方法については未だ試行錯誤を繰り返しているところであり、今後も多様な処置方法を検討していくつもりであるが、当面は上記方法等により修理作業を進めていく予定である。

高松塚古墳壁画修理進捗状況（天井3）



天井3 クリーニング作業前



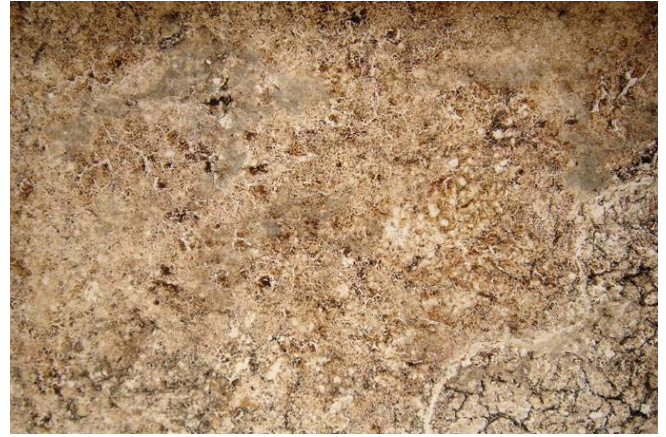
天井3 クリーニング作業後



次亜塩素酸ナトリウム使用前
（①部分拡大）



次亜塩素酸ナトリウム使用後



四級アンモニウム塩使用前
(②部分拡大)



四級アンモニウム塩使用后

原寸分割現状地図の作成進行表

	天井 1	天井 2	天井 3	天井 4	東壁 3 女子	西壁 3 女子	東壁 2 青龍	西壁 2 白虎	東壁 1 男子	西壁 1 男子	北壁 玄武
漆喰層の欠失	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
表層面の損傷		△	○	○	○		△	○		○	△
亀甲状の亀裂	○	○	○	○	○	○		○		○	○
漆喰の陥没			○	○	○			○			
黒スス黴	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	△
バイオフィルム	△	△	○	○	○	○	△	○	△	○	△
流入土・土塊			△	△	○						

○は終了済み、△は現在作業中の部分、△は今年度中に終了予定の部分を示す